



尼崎市6月議会でザイトク集団が在日女性に差別罵倒やり放題！

目前の差別暴力被害を見捨てる「在特会を相手にせず」方針の 非人間性と無策無能を批判する！

2012年7/24発行



余りに酷い尼崎市
議会でのザイトク
の差別怒号事件！

大阪府 門真市議：戸田ひさよし（鮮烈左翼「革命21」）
事務所：〒571-0048 大阪府門真市 新橋町12-18 三松マンション207
電話：06-6907-7727 FAX：06-6907-7730
HP：「戸田ひさよし」と検索すれば、すぐに出てきます！

傍聴者は語る・・・「日の丸条例」を強行可決した尼崎市の6月議会で起こった事・・・

・・・在特会反主流派を任ずる「おつる」の「誘導」によって尼崎市議会傍聴に参加した数人の在特会の連中が、こともあろうに傍聴参加の在日コリアンの女性を取り囲み「チョンコウ」「チョンコウ日本から出て行け」「お前ら生きている価値がない」など暴言を浴びせました。

そして彼らは他の傍聴者に対しても「日の丸が嫌いだったら日本から出て行け」「無人島に行け」「お前らチョンコウか」「ジジーははよ死ね」「お前日本人か、それでも日本人か」「ハゲ髪の毛抜くぞ」など暴言を吐きまくり、侮辱を重ねたのです。・・・こんな人権侵害事件が起こっているのに、市の職員も議員（「市民派」や「革新」議員も！）これを全く制止せず、とがめもせず、怒る様子もなく、やりたい放題にさせているのです。私は日本人として情けなくなりました。

■ 目前の差別暴力被害を見捨てる「在特会を相手にせず」方針の非人間性と無策無能に怒り！

- 1：この件で戸田が一番強く怒っているのは、（ザイトクの愚劣さ、それへの怒りは言うまでもない）「議会という公共の場で、議員にとっては『自分の職場』で、「ザイトクが老人や在日住民に差別暴力を振るっている（あの罵声怒号は「暴力」と認定すべき）のに、その被害者を助けず、「知らん顔」をし続けた「在特会を相手にせず派」の「人権派」の連中のアホウさ加減だ。
- 2：もしも「在特会を相手にせず」論が正しいとすれば、それは唯一「自分がザイトクの罵倒攻撃されても相手にしない＝直対応・反撃しない」事で集会などの進行をスムーズに行なう場合だけだ。
- 3：しかし自分以外の一般市民が、ましてや在日女性や老人が、自分の目の前でザイトクの差別暴力に襲われている時に、差別暴力の被害者を助けずかばわず、自分の身を挺して守ることもせず、その場の管理者に暴力加害者の排除や処罰を求める事もしない・・・、
つまり「自分の目の前の暴力被害者を見捨てる」事を正当化出来るものでは絶対にない！
- 4：犠牲になっているのは「自分」でも「自分と同じ意志一致をした仲間」でもなく、一般市民ではないか！
ある種の覚悟を決めてデモや座り込みに参加した人ではなく、議会という公共の、民主主義の場に來た一般市民ではないか！
自分の目の前で無辜の女性や老人が暴漢共に襲われているのに、助けもせず声も出さないとはいったいどういう神経をしているのか！ それでも人間か！ 人権を語ってきた者のやる事か！
ましてや「市民を守る責務」を持っている議員がそれをするとは何事か！
- 5：こういった非人間的な感性を正当化するのは、いわゆる「挑発に乗るな」論だが、その根底にあるのは「権力・右翼の暴力に対する恐怖感を土台とした保身主義」、有り体に言えば「我が身かわいさ」と、自分らの企画をつつがなく進めたいという静謐主義、言い換えれば「事態の混乱を活力に転化できない己の無能さの隠蔽」である。
だからこそ「我が身」ならぬ「他人」に差別怒号が襲いかかっても平気だったのだ。
- 6：尼崎市議会で日の丸反対側の対応を仕切ったのは尼崎市議達である事は間違いない。
共産党の議員達はザイトク問題にほとんど無知だから（共産党やその企画がなぜかザイトクの襲撃対象にならないのは非常に不思議だが）、実際に「在特会を相手にせず」論で取り仕切ったのは、社民党も含めたいわゆる「市民派議員」達であるはずだ。
これらの圧倒的多数（全部？）は、「口先だけでの人権派」であり、ザイトクと対決せず、ザイトク襲撃の被害者を助けようとせず、ザイトク問題を行政の課題とせず（まさに人権施策への破壊攻撃なのに！）、ザイトクの差別暴力を批判する声明に署名する事すら嫌がる議員達である。
分かりやすく言えば「自分はザイトクに目を付けられたくない！」一心なのだ。
- 7：実は、今回の「ザイトクが尼崎市に来る！」事件は、ザイトクを取り締め封じる絶好の機会でもあったのだ。
ザイトクにどうやってタガをはめたらいいかは、2011年9月の門真市議会答弁で示された「門真市モデル」に明確に示されている！（現にザイトクは、市役所や議会も含めて門真市に來て差別怒号する事が出来なくなっている！）
議員が市当局に文書質問や議会質問をして、「差別を許さない人権行政」を再確認させ、ザイトクの差別怒号の動画

を見せて、そういう行為が「差別と人権侵害に該当する（可能性が高い）」と認定させ、市内で差別怒号事件が起こった時の見解表明や公共施設にザイトクが来た時の対応や庁舎管理の徹底を約束させればよかったのだ。

戸田は「市民派議員」達にその事を何度も何度も情報提供し、行動提起をしてきた。

しかし彼ら彼女らはそれを全くやろうとしなかった！今年の1月からザイトクが尼崎市役所に来て差別怒号をしている事を知っていたのに、議員も「市民派女性市長」も誰一人対策を取ろうとしなかった！

日の丸問題でザイトクが押し掛ける事が分かりきった6月議会で議員が取り上げて、行政にザイトク対策・反差別人権擁護の対策を取らせていれば、こんな酷い事件は起こらなかったのだ！

◆こういう「住民の人権や安全を守るためにやるべき事をやらない」無能無策さ、効果的な対処方策（門真市モデル）が明示されているのに取り組まない無能無策さが、今回の差別怒号事件を許してしまったのだ。

8：こういった「自分はザイトクに目を付けられたくない一心の議員達」に同調して「在特会を相手にせず」方針に賛同した市民運動側にも大きな責任がある。

その中には在日コリアンの人々や団体もいるが、その判断は全く間違いだったと戸田は厳しく批判する。

◆在日コリアンも含めたこれらの運動団体の中心的な人々の多くは、いろんな集会で戸田からのピラを受け取り、反ザイトク闘争の「門真市モデル」を知っていたはずだ。

それなのになぜ、尼崎の議員達をつつて尼崎行政にザイトク対策を取らせようとしなかったのか？

◆いくら「現地議員の指揮には従わざるを得なかった」とはいえ、目の前で在日コリアン女性や一般老人がザイトクに罵倒暴力を受けているのを見て、やめさせよう、かばおう、と声や体を使わなかったのはおかしくないか？

◆これほど酷い差別怒号暴力が市役所や議場内で行なわれていながら、それを放置＝容認した議長や施設管理者に怒りを向けて対処を求めないのはおかしくないか？

9：■今回の事件は、「役所や議会内で差別怒号やり放題の悪例を作ってしまった」事を意味する。

2010年3月に生駒市・市議会の無策によってザイトク乱入暴れ放題事件が起こったが、2011年になって9月に門真市で「門真市モデル」の策定がされ、生駒市でも在日コリアン住民宅への襲撃街宣を契機に10月に「市長名での在特会への謝罪要求と、謝罪しない限り面談拒否」施策が実行されて、全国の自治体が進むべき方向がしめされたのに。

■少なくとも尼崎市では、市長や議会がザイトク暴力排除の厳しい姿勢を示して、今までと違う新たな対処策を作らない限り、ザイトクは今後もやりたい放題だ！

10：今回ザイトクの被害に遭った人達は、「市役所・議会という、安心できるはずの場所でいきなりあんな酷い罵声暴力を受けた」、「あんな酷い被害に遭っているのに誰も助けてくれなかった!」、「市の職員も議員さん達も、みんな知らん顔だった!」事に酷く傷つけられたはずだ。

それを周りで見っていた一般市民達も職員達にも「日の丸掲揚に反対したらあんな怖い目にあってしまうんだ、誰も助けてくれないんだ」という恐怖感が強烈に刻み込まれてしまったのは間違いない。

11：尼崎で「在特会を相手にせず」論を提唱した者達、それに従ってしまった人達は、これらの被害や損害への責任をどう取るのか？！

12：「日の丸掲揚反対・尼崎市議会闘争」に参加した全ての人々の間で、この戸田の指摘が真摯に検討されるべきである。

■ザイトクの差別暴力を行政・議会に公認させ、目の前の被害者を見捨て「沈黙の容認」をするに等しい、愚劣な「在特会を相手せず方針」を2度と使わせてはならない。

全国各地で似たような問題が次々と起こっていく状況にあるのだから、一刻も早くこんな愚劣な「方針」を粉碎し、ちゃんとザイトク暴力を封じ込めて排除できる方針を作っていかなければならない。

★ 端的に言えば、「ザイトク規制の門真市モデルの道か、ザイトク暴力容認の尼崎市の道か」である。

■「総括とは次によく闘うための智慧の結集」なのだから、「闘う気持ちの無い者」からは「総括の名を借りた言い訳」は生まれても、真の総括は出て来っこない。

特に一般人はいざ知らず、「護民官」たる責務を持つ議員という地位にありながら「自分だけはザイトクに目を付けられたくない一心」の「口先だけ人権派」の連中の心根は少なくともここ当分は直りそうにないから、こういう連中が持ち出す「在特会を相手せず方針」は徹底的に論破粉碎していかなければならない。

まずは人権や差別の問題、日本の戦争や植民地支配の問題を真剣に考えて、差別を居直る者達に真剣に怒る人達を中心にして、「尼崎市議会・ザイトク差別怒号事件」の総括論議がなされるべきである。

◎ 正義感のない議員や市長が正義感のない職員を容認放置する・・・尼崎市に抗議した市民の体験報告

ジェンダーと人権擁護の姿勢を強調する稲村和美市長に苦情と市政の根本的改善を求めるメールを送りましたが、「人権課」からの回答書は、問題が発生した事を反省もしなければ、今後どうするかなどにほとんど触れない、典型的なお役所仕事、机上の回答書でした。

議会事務局の職員は、平然として「私は担当部署の人間ではないから、仕事をしながら現場を見ていただけ」と言い放ち、「これ以上何回聞かれても私の答えは同じです」と言うだけでした。そこには自分の職場内で起こった差別罵倒・人権侵害事件への心の痛みも、市民の安全安心を守ろうとする姿勢も全くありませんでした。

